

## ワサビの新品種「さんべ」、「さぶみ」、「いわみ」について

上野良一\*・中川善紀\*

On the New Varieties of Wasabi (*Wasabia japonica* MATSUM.)

"Sanbe", "Sabumi" and "Iwami".

Ryoichi UENO and Yoshinori NAKAGAWA

## 緒 言

常により優秀な品種を求めるのは、いずれの作物においても同じであるが、ワサビほど品種に依存する度合の強い作物はないといっても過言ではない。特に島根県を中心とする中国山地のワサビ栽培は、静岡、長野県などの集団的栽培とは異なり、山深い渓谷を利用しての栽培であり、また栽培地が点在しているため、日常の管理が不十分となり易い。またワサビの生理、生態に関しては不明な点が非常に多く、さらには軟腐病、すみ入病などの病害対策も十分でなく、必然的にその質的、量的生産を高めるためには、なによりもまず、環境に適する品種、生育の早い、肥大の良好な品種、耐病性品種の探索、育成に力を注ぐ必要がある。

ワサビの品種は他の作物ほどには分化しておらず、また品種育成の手法も栄養系の選抜程度で、本格的な育種は行なわれていなかった。筆者らは以上のような見地から、1957年以来、早熟性、肥大性、耐病性品種育成を目的として数組合せの交雑を行ない、純系分離を行なってきた。純系の品種育成に関しては未だその目的を達成していないが、その過程で、栄養繁殖、株分け繁殖用として有望なる系統を選抜することができたので、1972年に「さんべ」、「さぶみ」、「いわみ」と命名し、普及に移すことにした。以下その選抜経過、特性の概要を報告する。

この品種育成にあたり有益な御教示、御指導を賜った元専門技術員横木国臣博士、共に品種育成に従事していた元園芸科研究補助員清水徳一氏（現津和野農林改良普及所）、現地における栽培管理に絶大な御協力をいただいた田中時康氏、三島豊氏に対し深甚なる敬意を表する。

## 1 育成経過

ワサビは遺伝的に不純であり、実生を行なうと形質の分離がみられる。したがって品種間交雑を行なえば、より形質の異なった個体が多く出てくることになる。遺伝に関する研究は皆無であり、どのような形質が次代に表われるかも不明であり、早熟性、肥大性、耐病性などの性質をもつ優秀な純系をうるとすれば、非常に多くの個体を対象として選抜しなくてはならない。一般の株分け苗よりも、実生苗のほうが、病害罹病率が低いこととなり、計画的に大量の苗を育てるのに優れていることから、実生栽培用の純系品種育成に着手したわけであるが、育種に多くの材料と年月を要するので、純系分離とは別に株分け繁殖用として優れたものの選抜もあわせて行なった。

育種材料はかつて當場で育成された「島根3号」のほか「ダルマ」、「静岡赤茎」、「静岡青茎」、「芽高」、「イザワダルマ」、「白茎」、「島根在来」やワサビと同属のユリワサビとし、「島根3号」にそれぞれの品種を交配した。

栽培は日原試験地、頓原試験地（1969年より）で行なったが、日原試験地は標高250m、築田形式は溪流式、湧水および溪流水利用、水温は14~18°C、水量は中位、適地条件としては中の下に位する。また頓原試験地は標高350m、築田形式は溪流式（ただし、床石は少なく、また勾配も緩やかで、通常の溪流式とはやや異なり、三瓶式とも称される）、湧水利用、水温は11~15°C、水量豊富、母岩は安山岩で、作土は層の深い砂である。適地条件は最上に位する。定植時期は年次によって異なるが、おおむね11月~12月上旬、栽植距離は35cm×24cm、1本植、栽培期間は2か年とした。

\* 園芸科

(1) 「さんべ」の選抜経過

「島根3号」に「ダルマ」を交配し、その実生個体中より、肥大性、すみ入病、軟腐病罹病程度などを中心に優良株を選抜、株分けによる増殖を行ない、さら

に比較選抜を行なうことを繰返した。

1959年より'61年には51個体を比較したが、こちら比較的良好と認めた個体の特性は第1表のとおりである。

第1表 「島根3号」×「ダルマ」第1作における生育結果 (1961)

系統名	草勢	葉色	葉柄色	すみ入病	腋芽	根茎重	根茎長	太さ	苗数
SD1-1-5 (SD38-1)	強	やや濃	うす赤	無	多	40 <sup>g</sup>	8.0 <sup>cm</sup>	2.5 <sup>cm</sup>	10 <sup>本</sup>
SD1-1-7 (SD38-14)	〃	〃	〃	軽	〃	50	9.0	2.8	9
SD1-1-9	〃	〃	〃	極微	〃	60	10.5	2.8	12
SD1-1-10	〃	〃	〃	無	〃	40	7.5	2.1	—
SD1-5-2	〃	〃	〃	〃	〃	30	8.0	—	10
SD1-7-11 (SD38-8)	極強	〃	〃	軽	〃	45	10.0	2.5	—
SD1-10-5 (SD38-11)	中	〃	〃	〃	〃	40	11.0	2.1	—
SD1-11-1	強	〃	〃	極微	〃	50	11.5	2.4	9

第1作で優良と認めた個体は株分けによって増殖し、1961年~'63年の第2作でさらに個体選抜を行なった。その結果24個体を優良と認め、SD38-1より38-

24の系統名を付すことにした。主な特性は第2表のとおりである。

第2表 「島根3号」×「ダルマ」第2作における生育結果 (1963)

系統名	草勢	葉形	葉色	葉柄色	すみ入病	腋芽	親根茎			子根重	
							重さ	長さ	太さ	数	重量
SD38-1 (1-1-5-3)	強	心臟形	中	赤	無	多	60 <sup>g</sup>	9.0 <sup>cm</sup>	2.2 <sup>cm</sup>	—	—
SD38-2 (1-1-5-4)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	60	10.0	2.3	—	—
SD38-3 (1-5-6)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	60	10.0	2.3	—	—
SD38-5 (1-5-2-7)	〃	円	やや淡	うす赤	〃	やや多	50	10.8	2.5	—	—
SD38-6 (1-5-2-8)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	50	11.5	2.2	1	50
SD38-8 (1-7-11-1)	〃	〃	濃	〃	〃	少	60	10.3	2.5	—	—
SD38-9 (1-7-11-2)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	40	9.0	1.8	1	30
SD38-14 (1-1-7-M)	〃	心臟形	中	〃	〃	〃	100	13.0	2.7	—	—

1963年~'65年には16系統を比較し、このうちからSD38-1, SD38-4, SD38-7, SD38-11, SD38-12, SD38-13, SD38-14を選抜した。

1965年~'67年には上記8系統を比較検討した結果、SD38-1, SD38-4, SD38-14を選抜することにした。1967年~'69年にはこの3系統を増殖するとともに最終的な比較を行なったが、このうちSD38-14は特に肥大が良好で、最良のものは根茎重が120gに達していた。日原試験地において収穫される島根3号、島根在来種などの平均的なワサビの根茎重は1本40g程度で

あり、これらの系統は特に肥大性がすぐれていると認められ、また根茎のすみ入病、軟腐病被害もほとんど認められなかった。収量調査結果は第3表のとおりであるが、3系統のうちではSD38-14が最良であると認め、日原試験地にも移して、適応性をみることにした。日原試験地における栽培結果は第12, 13表のとおりであり、極めて早熟性、肥大性にすぐれていることが確認されたので、1972年に選抜地の地名にちなんで「さんべ」と命名した。1959年~'67年における総合判定による選抜経過を示すと第4表のとおりである。

第3表 育成系統収量調査結果 (1969, 日原試験地)

系統名	掘取株数	収穫根茎数	同重量	㎡当り根茎収量	根茎平均1ヶ重
SD38-14 (さんべ)	37	27	2,140 <sup>g</sup>	694.1 <sup>g</sup>	79.2 <sup>g</sup>
SD38-4	60	52	2,420	484.0	46.5
SD38-1	45	40	1,860	496.0	46.5
SK38-8 (さぶみ)	68	78	4,780	843.5	61.3
SK38-4	48	68	4,040	1,010.0	59.4
SO38-8 (いわみ)	34	39	3,040	1,072.9	77.9
SO38-6	69	69	4,310	749.6	62.5

第4表 総合判定による「さんべ」の選抜経過

系統名	'61	'63	'65	'67	'69	
SD38-1	◎	◎	◎	◎	○	
SD38-2	◎	◎	○	—	—	◎…最良
SD38-3	◎	◎	△	—	—	◎…良
SD38-4	◎	◎	◎	◎	◎	◎…やや良
SD38-5	○	○	○	—	—	○…中
SD38-6	○	○	○	—	—	△…やや不良
SD38-7	○	○	○	○	—	×…不良
SD38-9	◎	◎	△	—	—	
SD38-10	◎	◎	△	—	—	
SD38-11	○	○	○	○	—	
SD38-12	○	○	○	△	—	
SD38-13	○	○	○	×	—	
SD38-14 (さんべ)	◎	◎	◎	◎	◎	
SD38-15	○	○	○	△	—	
SD38-16	○	○	△	—	—	

(2) 「さぶみ」の選抜経過

「島根3号」に「静岡赤茎」を交配し、その実生個体について「さんべ」に準じ、肥大性、早熟性、罹病

程度を中心に選抜を行なった。

1959年~'61年には40個体について比較検討を行なった結果、生育良好な7個体を選抜することにした。

第5表 「島根3号」×「静岡赤茎」第1作における生育結果 (1961)

系統名	草勢	葉色	葉柄色	すみ入病	腋芽の多少	親根茎			子根茎	
						重さ	長さ	太さ	数	重量
SK1-1-4	強	やや濃	青	軽	多	40 <sup>g</sup>	9.5 <sup>cm</sup>	2.1 <sup>cm</sup>	3	120 <sup>g</sup>
SK1-1-8	〃	〃	〃	〃	〃	44	11.5	2.0	2	60
SK1-1-10	極強	〃	〃	〃	〃	70	13.0	2.7	3	150
SK1-1-13	〃	〃	〃	無	〃	50	9.5	2.4	2	50
SK1-1-34	〃	〃	〃	〃	極多	20	8.5	2.2	2	50
SK1-1-39	強	〃	赤	〃	〃	40	9.5	2.1	—	—

「島根3号」×「静岡赤茎」はいずれも腋芽の発生多く、草勢が極めて強く、1株で数本の根茎を収穫できる特性をもつようみられた。

1961年～'63年には上記7個体を株分けによって増

第6表 「島根3号」×「静岡赤茎」第2作における生育結果(1963)

系 統 名	草 勢	葉 色	葉柄色	すみ入病	腋芽の多少	親 根 茎			子 根 茎	
						重さ	長さ	太さ	数	重量
SK38-1 (1-1-4-3)	強	中	青	無	中	50	11.0	2.0	—	—
SK38-2 (1-1-4-4)	〃	〃	〃	〃	〃	60	15.0	2.0	1	60
SK38-4 (1-1-8-8)	〃	やや濃	赤	〃	多	80	12.5	1.8	—	—
SK38-5 (1-1-10-2)	〃	〃	〃	〃	〃	70	13.3	2.2	1	50
SK38-8 (1-1-10-11)	〃	〃	〃	〃	〃	90	15.0	1.8	2	20
SK38-9 (1-1-13-5)	〃	〃	青	〃	〃	100	12.5	2.0	—	—

1963年～'65年には21系統のなかからSK38-2, SK38-3, SK38-5, SK38-6, SK38-7, SK38-8を選抜, 1965年～'67年の栽培結果から, さらにSK38-3, SK38-8を選抜した。1967年～'69年における収量調査結果は第3表のとおりであるが, 両系統とも1株で数本の根茎を収穫しうるものが多く, 収量性にすぐれていると認められた。ただし根茎は細長く, 「さんべ」, 「いわみ」に比較すると根茎の太りが悪いようであった。

1969年～'71年にかけては日原試験地のほか 頓原試験地でも増殖をかねて適応性をみることにした。頓原試験地での栽培結果は第12, 13表のとおりであるが, 両系統のうちではSK38-8が総合的にすぐれていると認められたので, 日原試験地所在地の地名にちなんで

第7表 総合判定による「さぶみ」の選抜経過

系 統 名	'63	'65	'67	'69
SK38-1	●	△	—	—
SK38-2	◎	●	—	—
SK38-3	○	●	○	—
SK38-4	○	●	◎	◎
SK38-5	●	◎	○	—
SK38-6	◎	●	—	—
SK38-7	◎	◎	—	—
SK38-8	◎	◎	◎	◎
SK38-9	●	△	—	—
SK38-10	●	△	—	—

殖して比較検討を行ない, 生育良好な21個体を選抜, SK38-1よりSK38-21までの系統名を付すことにした, 主な系統の特性は第6表のとおりである。

「さぶみ」と命名, 普及に移すことにした。

1961年～'67年における総合判定による選抜経過を示すと第7表のとおりである。

(3) 「いわみ」の選抜経過

「島根3号」に「静岡青茎」を交配し, その実生個体について, 「さんべ」に準じ, 早熟性, 肥大性, すみ入病, 軟腐病罹病程度などを中心に比較選抜を行なった。

1959年～'61年には39個体について比較検討した結果, 8個体を優良と認めた。その生育結果は第8表のとおりである。

次いで1961年～'63年には第1作で優良と認めた個体を株分けによって増殖して比較検討した結果, 12個体を選抜, SO38-1～SO38-12の系統名を付すことにした。主な系統の生育結果は第9表のとおりである。

1963年～'65年にはこのうちからSO38-1, SO38-2, SO38-3, SO38-6, SO38-8, SO38-9を選抜し, 1965年～'67年にはさらに根茎の肥大良好なSO38-6, SO38-8, SO38-9の3系統を選抜, 1967年～'69年にはSO38-6, SO38-8の2系統にしぼり, 本格的な増殖をはかるとともに, 特に成績優秀なSO38-8は頓原試験地に移して適応性をみることにした。1969年度における収量調査結果は第3表のとおりであるがSO38-8はSO系統はもとより, 他のSD, SK, SI, SM, SZ系統よりも根茎が大きく, 収量が多かった。頓原試験地での栽培結果は第12表のとおりであるが, 早熟性では「さんべ」に劣るが通常の1年半～2年の栽培期間であれば

第8表 「島根3号」×「静岡青茎」第1作における生育結果(1961)

系 統 名	草 勢	葉 色	葉柄色	すみ入病	腋芽数	親 根 茎			苗 数	子 根 茎	
						重さ	長さ	太さ		数	重量
SO1-1-2	中	—	赤	軽	中	80	11.5	2.7	6	—	—
SO1-1-5	極強	—	やや青	無	—	60	10.5	2.4	12	1	40
SO1-1-8	強	やや濃	青	〃	—	60	13.0	2.3	—	3	120
SO1-1-9	〃	〃	〃	—	—	60	13.5	2.5	3	4	110
SO1-3-3	極強	濃	〃	無	—	40	10.0	2.2	—	3	90
SO1-4-1	強	—	〃	軽	—	70	12.5	2.6	—	2	60
SO1-5-8	〃	濃	うす赤	無	中	60	13.0	2.7	—	4	140
SO1-6-5	中	〃	赤	軽	少	50	11.0	2.2	—	—	—

第9表 「島根3号」×「静岡青茎」第2作における生育結果(1963)

系 統 名	草 勢	葉 色	葉柄色	すみ入病	親 根 茎			子 根 茎	
					重さ	長さ	太さ	数	重量
SO38-1(1-1-2-4)	強	濃	うす赤	無	70	8.0	2.2	3	200
SO38-2(1-1-2-5)	〃	〃	〃	〃	80	9.5	2.1	1	80
SO38-4(1-3-3-2)	〃	〃	青	〃	60	11.5	2.2	—	—
SO38-5(1-3-3-5)	〃	〃	〃	〃	70	10.0	2.3	2	130
SO38-7(1-6-1-4)	〃	〃	うす赤	〃	80	11.5	2.9	1	80
SO38-8(1-6-5)	〃	〃	赤	軽	80	11.5	2.7	5	390
SO38-9(1-3-1)	〃	〃	〃	〃	150	12.0	2.3	—	—
SO38-10(1-5-1)	〃	〃	〃	無	100	11.8	2.5	1	90

「さんべ」以上に太り, 収量が多いと認められた。ただし腋芽の数は少なく, 株分けがやや困難な欠点を有している。SO38-8は日原, 頓原両試験地での栽培結果とくに肥大性にすぐれていることから, 他の品種より1年早く, 1971年に「いわみ」と命名し, 普及に移すことにした。

1959年～'67年における総合判定による選抜経過を示すと第10表のとおりである。

(4) その他

上記3品種のほか「島根3号」×「芽高」, 「島根3号」×「イザワダルマ」, 「島根3号」×「白茎」, 「島根3号」×「島根在来」などの実生個体についても比較検討し, 選抜を行ってきたが, 栄養繁殖用としては目的とする肥大性, 早熟性, 耐病性の点で特にすぐれたものがなかった。

第10表 総合判定による「いわみ」の選抜経過

系統名	'61	'63	'65	'67	'69
SO38-1	○	○	○	—	—
SO38-2	○	○	●	×	—
SO38-3	○	○	◎	○	—
SO38-4	○	●	○	—	—
SO38-5	○	●	○	—	—
SO38-6	○	●	●	◎	◎
SO38-7	○	◎	◎	—	—
SO38-8	○	◎	◎	◎	◎
SO38-9	○	◎	○	○	—
SO38-10	○	◎	△	—	—
SO38-11	○	○	△	—	—
SO38-12	○	○	△	—	—

2 特性の概要

(1) 「さんべ」

葉形は心臓形であるが、やや角ばっており、葉色は淡緑、光沢は中程度である。葉柄色は緑色で青茎種に属するが、わずかに内側に赤味をおびることもある。

草勢は極めて旺盛で腋芽の発生が多く、またその腋芽の生育もよく、根茎の太い、葉数の多い、いわゆる大苗として利用できるものが多い。

根茎の肥大は極めて良好で、葉腋部は特に太く、先端まで比較的太いため形も良い。

辛味は強く、粘りがあり、甘味もかなりあって品質は優良である。

とくに早熟性であり、環境条件、苗の大きさにもよるが、10か月程度で1本が140~120gに達することもある。通常ワサビは18~24か月の栽培期間を要するが、本種を利用することにより条件が良ければ12か月栽培も可能になると思われる。

(2) 「さぶみ」

葉形は心臓形であるが、やや長形で、葉色は淡緑、光沢は中程度である。葉柄色はごくうすい緑色で青茎種に属し、葉柄はやや細くて長い。

根茎は細長く、色は淡い褐色である。他の品種より根茎が長いので、肥大が悪いようにみられるも、かなりの太さになる。腋芽の発生は特に多く、細長いものが多いが、生育の旺盛な株では腋芽の根茎もよく太り、1株から数本のワサビを収穫することができる。辛味は強いが、粘り、甘味は「さんべ」よりやや劣るようである。

苗つきが非常によいので増殖は容易であるが、根茎の太りが長さ比較して、やや悪いので「さんべ」のような12か月栽培はやや困難であり、18か月栽培用として利用するほうがよい。また比較的環境条件の悪い

ところでも生育が良かったため栽培適地は広いと考えられる。

(3) 「いわみ」

葉形は心臓形であるが丸味をおびている。葉色は濃緑色で光沢が強い。葉柄は赤味が強く赤茎種に属する。

根茎の太りは非常に良好で、中央部の太くなる、いわゆる中太り型である。

辛味は強いが、粘り、甘味は「さんべ」に比較しやや少ない。

腋芽の発生は極めて少ないが、生育の良い場合には、この腋芽の根茎もよく太り「さぶみ」と同じように1株で数本のワサビを収穫することができる。しかし苗となる腋芽の発生が少ないことから、増殖率が特に低い欠点をもっている。したがって通常の株分け繁殖のほか、輪切り、その他の方法で増殖をはかる必要がある。また根茎の太りは良いが、早熟性の点では「さんべ」よりも劣るので、一般の品種と同じように18~24か月栽培用として利用するほうがよい。

3 試験栽培結果

育成した3品種を1969年より日原試験地、および頓原試験地において試験栽培した結果は次のとおりである。

日原試験地における中苗を用いた栽培、および頓原試験地における小苗を用いた栽培（いずれも24か月栽培）の結果は第11、12表のとおりである。

いずれの試験地においても、育成した3品種はすぐれた生育を示し、比較的栽培環境の良くない日原試験地においても平均60g以上の根茎を収穫することができ、特に「さんべ」は80g以上の根茎となった。また環境条件の良い頓原試験地においては、小苗を用いたにもかかわらず、「さんべ」、「いわみ」は根茎の平均

第11表 日原試験地における24か月栽培（平均1株当たり）

品 種	全 重	根 茎			大 苗		小 苗	
		重量	長さ	太さ	本数	重量	本数	重量
さんべ	475.5	83.3	11.8	2.7	4.5	362.5	6.3	220.0
さぶみ	148.0	62.0	12.0	1.5	3.8	164.0	3.4	40.0
いわみ	104.0	64.0	10.0	2.2	1.3	72.0	3.4	32.0

注) 植付 1969年11月, 収穫 '71年11月

第12表 頓原試験地における24か月栽培（平均1株当たり）

品 種	全 重	根茎数	根茎重	根茎平均1本当たり			苗数	苗 重
				重量	長さ	太さ		
さんべ	751.3	1.8	164.5	94.0	12.8	2.5	4.8	152.5
さぶみ	940.0	3.4	246.4	72.5	13.4	2.1	3.0	85.0
いわみ	922.5	3.3	305.5	94.0	13.0	2.6	1.5	20.0
島根3号	1,056.0	1.6	92.2	57.6	9.5	2.1	6.6	85.6

注) 植付 1969年12月, 収穫 '71年12月

重が90g以上になり、「さぶみ」でも70g以上となった。1株当たりでも「さんべ」で1.8本、「さぶみ」、「いわみ」では3本以上の根茎を収穫することができた。

大苗（葉数10枚程度、根茎の太さ1.5cm、長さ6cm程度）利用による12か月栽培を頓原試験地において行った結果は第13、14表のとおりである。

第13表 頓原試験地における10か月栽培（平均1株当たり）

品 種	全 重	根 茎			大 苗		小 苗	
		重量	長さ	太さ	本数	重量	本数	重量
さんべ	1,403.3	143.0	17.8	2.8	4.0	738.3	5.7	169.6
さぶみ	916.7	86.3	17.7	2.1	1.6	533.3	7.0	261.0

注) 植付 1971年12月, 収穫 '72年10月

第14表 頓原試験地における12か月栽培（平均1株当たり）

品 種	全 重	総葉数	根 茎			苗数	苗 重
			重量	長さ	太さ		
さんべ	800.0	32.0	112.0	10.8	3.5	2.0	80.0
さぶみ	1,179.0	72.0	88.0	11.7	2.3	7.0	545.0
いわみ	860.0	31.0	92.0	11.5	3.1	2.0	30.0

注) 植付 1972年10月, 収穫 '73年9月

1971年度は「さんべ」、「さぶみ」のみを供試し10か月で収穫したが、「さんべ」は平均根茎重143g、長さ17.8cm、太さ2.8cmと非常にすぐれた生育を示した。また「さぶみ」も86g以上の根茎を収穫することができた。

1972年の結果でもほぼ同じような傾向を現わし3品種とも80g以上の根茎となり、とくに「さんべ」の肥大が優れていた。腋芽のつきは第11、12表とほぼ同じ傾向となった。

これらの結果から、育成した3品種とも、従来の品種と比較し、早熟性、肥大性の点で優れた特性をもつ

ことが確認された。特に「さんべ」が優れていることから、本品種の大苗を利用した短期栽培（12~10か月栽培）が可能ではないかと考えられる。

4 栽培上の注意

(1) この3品種は栄養繁殖、いわゆる株分け繁殖用の品種であり、実生繁殖はできない。

実生を行なうと、遺伝的に純系でないためかなり形質が分離するので注意する必要がある。

(2) 「いわみ」は苗になる腋芽の発生が極めて少なく、増殖が困難である。したがって通常の株分け法の

ほか、根茎の輪切り増殖法など、能率的な増殖方法を考える必要がある。

(3) 「さんべ」の根茎の肥大は特に早く、しかも良好であるが、その特性をいかし、12か月どりを可能にするためには、大苗を使用することのほか、水温が12～15°Cであること、水量が豊富であること、安山岩を母岩とする砂の多い培地であることなどの条件を満たす必要がある。

(4) この3品種は肥大がよく、比較的早熟性であるためか、すみ入病、軟腐病の被害はほとんどうけなかった。しかし抵抗性検定を行っていないので、軟腐病に対する強弱は不明である。すみ入病菌を葉に接種して品種間の抵抗性を調査された結果では、特に強い品種はなく、「さんべ」がやや強い方に属する程度とされている。

## 5 摘 要

1957年より、早熟性、肥大性、耐病性品種を育成するため、「島根3号」に「ダルマ」ほか7品種をそれぞれ交配し、純系分離を続けているが、その過程で榮

養繁殖用として有望とみられる3系統を選抜することができたので、1972年に「さんべ」、「さぶみ」、「いわみ」と命名した。

「さんべ」; 「島根3号」に静岡の「ダルマ」を交配し、その実生個体のうちから、特に早熟性、肥大性のすぐれたものを選抜した結果得られたもので、多収性であり、根茎の形状も良く、品質も良い。大苗を利用すると、短期栽培(12か月栽培)も可能である。

「さぶみ」; 「島根3号」に「静岡赤茎」を交配し、その実生個体のうちから、早熟性、肥大性のすぐれたものを選抜した結果得られたもので、根茎の伸びが非常に良く、多収性である。腋芽の発生が多いので増殖能率が高い。

「いわみ」; 「島根3号」に「静岡青茎」を交配し、その実生個体のうちから、特に肥大性のすぐれたものを選抜した結果得られたもので、根茎の太りが非常に良く、多収性である。早熟性はあまりないため短期栽培には適さない。腋芽の発生が特に少ないことが欠点である。

## Summary

In order to obtain the new varieties of Wasabi which has the characteristics such as early growth, large growth and resistance to diseases, we conducted the crossing with 9 varieties in 1957 and continued the selection about vegetative lines divided from seedlings. In 1972 three strains were selected and named respectively as "Sanbe", "Sabumi" and "Iwami". The main characteristics are as follows.

"Sanbe"; This variety was selected in vegetative lines divided from seedlings "Shimane No.3" × "Daruma".

The rhizome grow larger rapidly and especially. Form and taste (pungency, sweetness, stickiness etc) of rhizome are good. It may be possible to shorten the period of cultivation so far as 12 months by using large nursery plant of this variety

"Sabumi"; This variety was selected in vegetative lines divided from seedlings "Shimane No.3" × "Shizuoka Akaguki".

The rhizome grow rapidly but its thickening is a little inferior. The tillers break out plentifully and grow larger, so the propagating capacity is very large.

"Iwami"; This variety was selected in vegetative lines divided from seedlings

"Shimane No.3" × "Shizuoka Aoguki". The rhizome grow larger as well as "Sanbe" but the rate of growth is slower than that, so the period of cultivation is so long as usual varieties. The propagating capacity is very small because the tillers are so few.

## 図 版 説 明

A : 「さんべ」

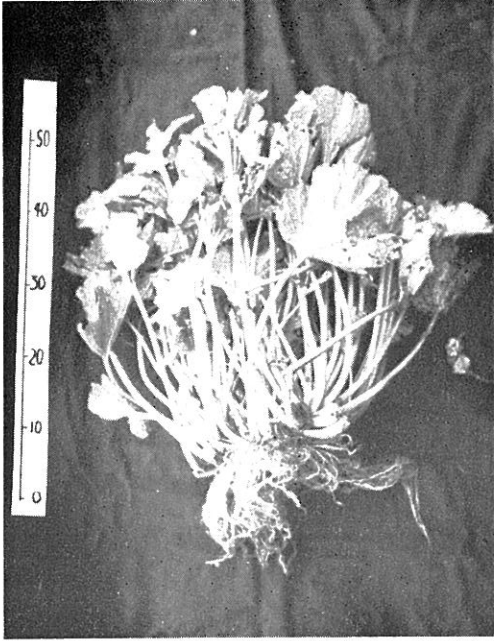
B : 「さぶみ」

C : 「いわみ」

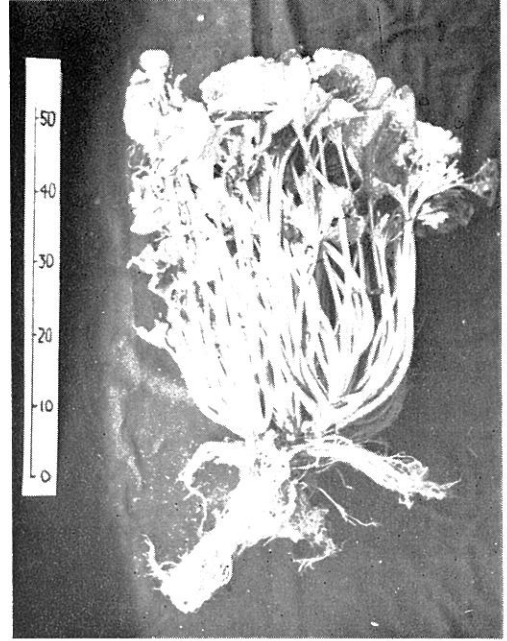
D : 左より「さんべ」、「いわみ」、「さぶみ」

E : 頓原試験地における大苗利用の10か月栽培  
(左より「さぶみ」、「さんべ」)

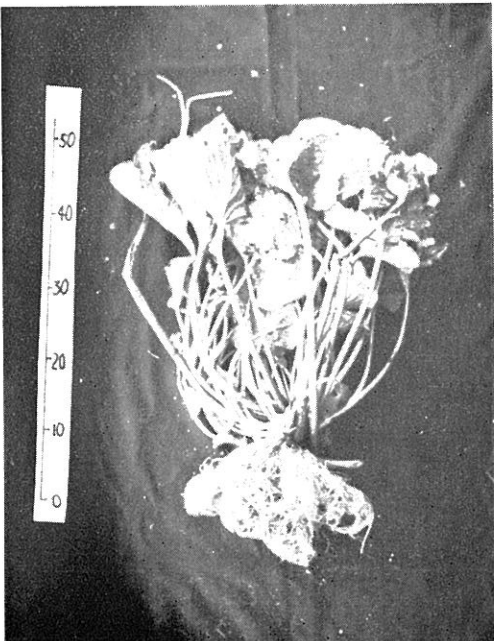
图 版



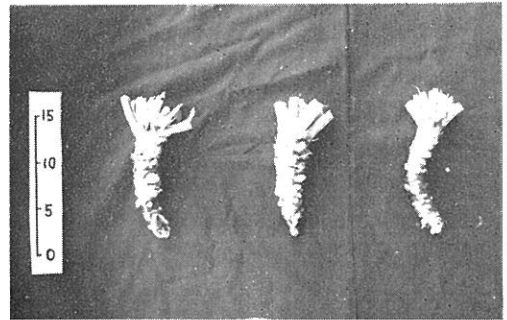
A



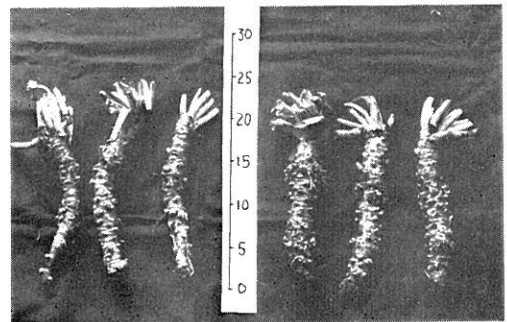
B



C



D



E